

研修報告

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	有本日南人			印
所属大学	岡山大学	学部	理学部	
学科	化学科	学年	3 年	
専門分野				
派遣国	ポーランド	Reference No	PL-2018-PLO028	
研修機関名	Centre of Molecular and Macromolecular Studies PAS	部署名	Department of Heteroorganic Chemistry	
研修指導者名	Mr Jozef Drabowicz, Prof.	役職		
研修期間	2018 年 9 月 2 日 から 2018 年 9 月 28 日 まで			

【事務局使用欄】

受領日：

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。

(1) 研修内容・研修先での日々

研修先は大規模な工事をしていて、研修期間の半分は旅行に費やされました。また、自分は学部 3 年で研究テーマを持っていないこともあり、基礎的な有機化学実験をするに留まりましたが、研修先の方は皆優しく接してくれました。また、時間に細かくて厳しい日本と違ってスケジュールにとっても融通が効き、自由な時間も多く取ることができました。

(2) ウッチでの生活

ウッチというポーランドの首都ワルシャワからバスで 2 時間の街に滞在しました。所謂地方都市であり観光名所や娯楽施設はほとんどありませんでしたが、大きなショッピングモールがあり、特に不便をすることはなかったです。

滞在先の寮は 2 人部屋で、日本人の武田さんと相部屋でした。IAESTE で他国からの学生の多くは既に研修を終え帰国してしまったようで、イベントやパーティーにはほとんど参加できませんでした。

ポーランドは物価が安く、外食をしても日本ほどの負担はかからず、自炊をすれば非常に安く済みました。

(3) 感想

私が IAESTE のインターンシップに参加した理由は、日本と海外の教育制度や研究の違いを知ることと、専門分野が同じ(理系の)海外の学生と交流し、意見を交わしていきたいということでした。ポーランドに渡航する前までは、渡航先についてはほとんど印象がありませんでしたが、いざ現地の人と話すと、ポーランドの人は日本について遥かに詳しく知っており、恥ずかしくなりました。

日本で無意識のうちに築き上げてきた価値観は、当然ポーランドのそれと似ていたり違っていたりしましたが、文化の差異を少しでも理解でき、これからの日本での生活に活かしていくことができればいいなと思います。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について 4 ページ程度で具体的に報告してください。
(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

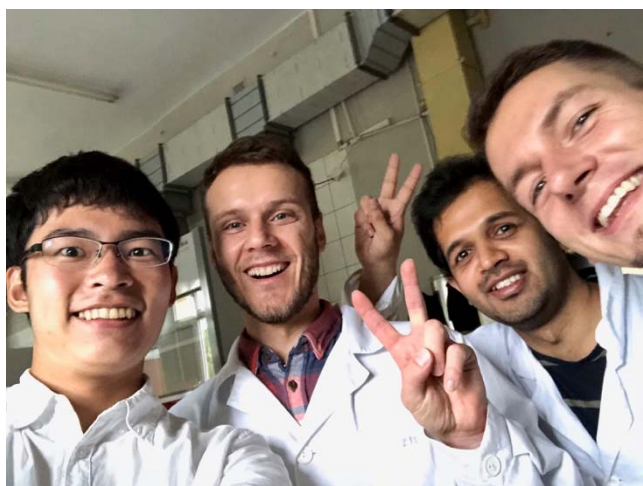
(1) 研修内容・研修先での日々

研修先は、実験装置などの大幅な改装を行っていて、到着してから 2 週間は何の実験もすることができないと言われ、近隣諸国の旅行に出かけました。到着してすぐで、まだ現地での生活に慣れない状態でしたが、チェコやオーストリア、ハンガリーの風景はとても美しく感動しました。



写真①: ドイツ・フィルハーモニーホール。ベルリン・フィルの演奏会にも足を運ぶことができた。

私は学部 3 年でありまだ研究テーマがなかったため、研修先の Ph. D の学生さんから基礎的な有機実験の行い方や実験装置の扱い方を教わりました。日本の大学の学生実験で扱う内容とよく似ていて、今までに学んでいた知識を復習することに加え、実際に自分で手を動かすことで理解を深めることができました。



研修時間は、平日の概ね朝の 9 時半から午後の 3 時くらいでした。研修先の方はワークショップに向けての準備があり大変そうでしたが、自分は比較的時間に融通が効いたため、研修が終わってから街を散策したりショッピングモールに行ったりしました。

写真②: 研修先の方との記念写真。

(2) ウッチでの生活

滞在先はポーランドの首都ワルシャワからバスで2時間の街ウッチでした。ワルシャワは都会で交通網もよく、様々な観光地や商業施設があるのに対して、ウッチは **manufaktura** という大きなショッピングモールくらいしか遊ぶところがなく、正直に言うと簡素な街でした。しかし、周辺諸国全てに長距離国際バスが運行されていたため、先に述べたように到着直後や週末で実に 5 カ国も巡ることができました。ワルシャワには日帰りや、また夜行バスや宿泊してウクライナのリヴィウやドイツのベルリンに旅行しました。出発前はまさか 1 ヶ月という短い期間でこんなにも多くの国に行けるとは予想していませんでしたし、これからもこれほど長い期間を旅行に費やすことはもうないでしょう。

研修が始まったのは 9 月の初めからでしたが、ウッチに来ている他の研修生は既に研修を終え帰国していたようでした。7 月や 8 月は研修生の数も多く、国籍も様々でイベントやパーティーも頻繁に開かれていたようですが、9 月は閑散としていてあまり交流はありませんでしたが、一度寿司パーティーを開いてブラジルや中国からの研修生と交流しました。

寮は二人部屋でした。日本から、6 月の後半から来ている武田さんと一緒に部屋だったため、色々と生活全般についてアドバイスを頂くことができ、大変お世話になりました。トイレやシャワーは共有で、部屋は簡素でしたが寮の近くにレストランやスーパーマーケットがあったため不自由することはありませんでした。食事は、朝食と昼食は研修先の食堂で、一方夕ご飯は寮の近くで外食したり自炊したりと様々でした。ポーランドは日本と比べて物価が安く、自炊をすれば非常に安く食事をできました。



写真③: ウッチの街並み。路面電車が市内を網羅しており、移動には困らなかった。



写真④: ワルシャワの街並み。道路は清潔だった。

(3) 感想

研修開始前後での心境について述べていきます。

私がそもそも IAESTE を使った海外渡航を希望した理由は、教育や研究制度の日本と海外との違いを知ることと、様々なバックグラウンドを持った海外の人と積極的に交流を深めていきたいということでした。簡潔に言うと、日本との差異を発見したいということです。

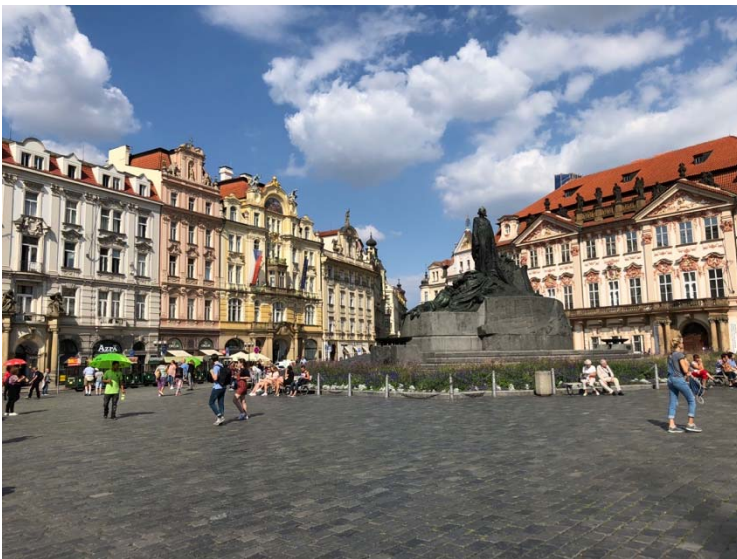
いざ研修先や他国からの IAESTE の学生と交流すると、皆日本についてとても造形が深いことにまず驚きました。ポーランドの人々は第二次世界大戦前後の歴史から日本を高く評価していることをはじめ、寿司、お好み焼き、神戸牛などの日本文化について詳しかったです。他にも、上海から来ていた学生は J-POP やアニメなどのいわゆるポップカルチャーを網羅していて、自分よりも遥かによく知っていました。様々な人と交流を深めるにつれ、一方の自分はポーランドについてもショパンくらいしか印象がないし、中国の文化も知っているかと言われると全く知らず、ただただ無知であることを改めて認識しました。正直に言うと、日本は島国で人口も比較的多く、文化の歴史は長いこともあるかもしれませんが、まさか日本と長い距離があるポーランドの人がこれほどよく知っているとは予想すらしていませんでした。

今回 IAESTE の制度で良いなと思った点は、日本人やアジア人がいない環境の中で過ごせたことです。寮ではルームメイトは日本人でしたが、研修先はアジア人は全く居ず(インド人はいた)、即戦的な英語力を鍛えるには十分な環境でした。研修先では皆さんは丁寧に話してくれたため、語学の面で困ることはあまりありませんでしたが、寮の受付の方や街で 4、50 代以上の方になると全く英語は通じず、世代によって差が著しいことに驚きました。これまでも旅行や語学研修で海外には何回か渡航していましたが、今回ほどどっぷりと異文化に浸かったことはありませんでした。これは IAESTE ならではの経験でしょうか。



写真⑤: 研修先の方との食事。

私は、学部で長期留学するには休学する必要があるそれが嫌だったのも IAESTE で渡航した一つの理由です。大学院で留学できればいいと思いますが、まだ先のことなのでどうなるのか分からないのが現状です。また、海外で就職したいとも全く思っていないので、今後長期で海外に滞在することはもう無いかもしれません。しかし、異文化という環境で、さらには日本語が全く通じない所で過ごせた経験は今後の人生で有意義であると確信しています。なぜなら、異文化を知るということは日本の理解を深めることに等しいからです。日本に留まるだけなら日本での常識がさも当たり前としか思えませんが、海外で予想不可能な事に遭遇したり、良いことや気分の悪い経験を積むことで日本の良さや改善しなければならないことが始めて見えてくるでしょう。近年では”グローバル”という言葉が大学でも世間でも頻繁に耳にします。その本質は海外に出るだけではなくて幅広い視点を持ち、自国について考え直すことではないでしょうか。



写真⑥チェコ・プラハの旧市街広場。街並みはとても美しく、まるで夢の中にいるようであった。

研修先は大規模な改装が行われていたこともあり、専門分野の研修は十分に満足できたわけではないですが、大学生であり、長い時間を自分のやりたいことに割ける今この時期に異文化に(さらに、非英語圏に)浸かることができ、かけがえのない時間を過ごせたなあと痛感しています。今回の研修で学んだことが、これからの人生で少しでも意味をなしていけばいいなと思います。

Ⅱ. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい)
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。
2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(いいえ)
実際の就業時間: 1日(5)時間
1週(5)日間;(月)曜日から(金)曜日
3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。
週単位: 現地通貨(280PLN)日本円(8400 円)
全支給額: 現地通貨(1121PLN)日本円(33630 円)
4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい)
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例:現金手渡し・銀行振込・小切手等)

現金手渡し
6. 研修中の滞在先について、宿舍の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。

ウッチ大学の学生寮に滞在。二人部屋で、シャワー・トイレは共用。周辺にはスーパーマーケットやトラムの乗り場があり、治安もよく過ごしやすい。
7. 研修中の滞在先(宿舍)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)

トラムを利用し、片道 40 分。一ヶ月乗り放題の定期を買い、45PLN(日本円で 1,350 円)だった。
8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい)
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。
9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て

十分だったと思いますか。(はい)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。

勤務の後は、近くのショッピングモールを散策したりした。

周辺の国(チェコ、オーストリア、ハンガリー、ウクライナ等)に旅行した。

2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会がありましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。

4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。

派遣前は、語学面での心配(街で英語が通じるか)があったが、実際は若い世代は確実に話すことができる一方で年配の方は全く通じず、世代によって英語ができるのかが変わってくるのが印象に残った。

5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい)

「はい」と答えた場合、特に印象に残った質問、面白かった質問、あなたが返答に困った質問などがあれば、それにどう答えたかも含めて書いてください。

研修先の方と昼食の時に、移民問題についてのトピックが上がったが、日本の移民受け入れの有り無しなどを質問された。質問ではないが、ヨーロッパの人は自分の意見をはっきりと述べていたことが印象に残った。また、ポーランドの人は日本について歴史・文化ともに非常に詳しく、質問されることは少なかった。

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題がありましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

2. 派遣国への入国時に何か問題がありましたか。(いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(いいえ)

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

研修先の方と行った。

4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。
出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

現地の委員会から宿泊先や寮までの行き方についてサポートがあった。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい)
「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。
6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。
研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

特に事務局の関与はなかった。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。

1つ目は、ポーランドでの研究生活や働き方を垣間見ることができたこと。日本とは違う環境で生活することで、日本のいいところや悪いところを発見できた。これから海外で生活するにせよしないにせよ、ある程度の期間を異文化で日本語が通じない所で過ごせたことは、将来の人生で必ず有意義になるであろう。

2つ目は、日本人どころかアジアの人もほとんどいない環境で 1 ヶ月を過ごせたこと。寮ではルームメイトは日本人で中国からの学生もいたが、研修先は自分以外皆ヨーロッパの人であった。自分の意見を求められるのは度々で、また自身の発言が彼らの日本のイメージを作っていくのだと思い発言のたびに緊張した。

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(いいえ)
「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。
「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。

N5 書類の研修内容が漠然だったため、勉強はしなかった。

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。
(いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。

現地の言語での簡単な挨拶、1 から 10 くらいの数字の言い方。

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

クレジットカードは 2 枚持っていき、内 1 枚は限度額を上げておいた。現地で両替できるよう日本円で 3 万円ほど現金で持っていた。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。

洗剤やシャンプーなどの生活用品を一通り準備しておいたが、寮の近くにスーパーマーケットがあったため逆に荷物になってしまった。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

貴重品のみならず、身の回りのものの管理は徹底したほうが良い。また、研修期間にもよるが簡単な自炊はできた方がよい。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？

自分はポーランドについての知識が全然ないにもかかわらず、ポーランドの人は驚くほど日本についてよく知っていた。日頃から幅広く知識を取り入れていきたいと思うようになった。

9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

大学院で数ヶ月留学できればよいなあと考えていたが、今回その気持ちがより強まった。

10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

現地では、危機管理を徹底して下さい。ここは日本ではない、ということを常に頭の片隅に置いて下さい。